

国産食材一割・9割

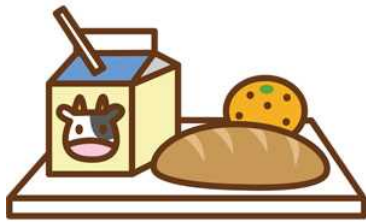
平成27年 8月25日発行
発行 龍ヶ崎市回想法センター
龍ヶ崎市平台5-9-7
電話・FAX 0297-65-4443
Email pia-kaiso@etude.ocn.ne.jp
h p wwwpiakaiso.sakura.ne.jp

朝夕は涼しくなってきました

食は大事にしたい

子どもを不幸にする一番確実な方法は何か？それはいつでもなんでも手に入れられるようにすることだ…哲学者ルソーの言葉です。戦後の物のない時代、私には一杯のラーメンを兄弟3人で囲み箸を突っ込んで食べた記憶が残っています。ラーメンが手軽に食べられる昨今とは違い、ラーメンでもそう簡単には食べられない頃の話です。

現代社会では、子供は幼くして消費主体であり、



小遣いがあれば親の許可なしに何でも買って食べられます。学校給食が残るなどということはもののない時代を生きてきた私たちにとっては信じ

られないことです。日本は食べられるのに捨てられる食品が国内で年間500万トン～800万トンもあります。食料の過半数を海外に頼っているのにこうも食ものを粗末にしたら今に食罰が当たりそうです。食には命があります。その食の命をいただくのです。食への謙虚な気持ち、もったいないの心を取り戻したいものです。

食欲の秋に思うこと

国の危機を食料需給率を向上させることで改善したイギリスの話しを思い出しました。我が国といえば国産よりも輸入食材の方がはるかに安いと何ともおかしなことが起こっています。

昭和30年半ば時の池田首相が「所得倍增計画」を打ち出しました。そんな池田首相に「所得倍增計画には農民も入っているのか」と迫ったのが青森県出身の淡谷悠三議員、歌手の淡谷のり子さんの叔父さんだそうです。質問を受けて首相は答えに絶句したといえます。



高度成長は農村から若者を奪うことになり「三ちゃん農業」が流行語になりました。日本の農業は衰退の一途をたどったのです。国内の耕作放棄地は増える一方で歯止め

がかかりません。TPP交渉の行方も気になります。私たちは、農耕民族であることを忘れてはいませんか？。農業を体で覚えている高齢者を先生にして、是非とも、若い世代に農業の大切さ食の大切さを伝承してほしい、そんな施策を国に望みたいです。「食は命」安全・安心の国産食材で元気に長生きしたいものです

お知らせ

9月のおしゃべりサロン

9月14日(月)、9月28日(月)
14時～16時、市役所地下食堂後

認知症家族会・「あおぞら」

9月 2日(水)、10月 7日(水)
13時30分～15時、市民活動センター・多目的室

問い合わせ先 ☎ 0297-65-4443